

# 三小だより 2月号

## 子どもとネット環境

校長 大鳥 清裕

暦の上で大寒を過ぎて立春に至るまでのこの時期、例年であれば1年で最も寒い時期のはずなのですが、今年がかつてない暖冬で気温も例年を上回る日々が続いています。先日気象庁が2～4月までの3か月予報を発表しましたが、それによると気温が高い傾向は今後も続くということで、どうやらこの冬は記録的な暖冬のまま終了しそうです。寒くないのはありがたいのですが、一方でスキー場などでは雪不足が深刻な影響を与えているところもあります。やはり季節相応の気温・気象状況になってほしいと思うと同時に、この温暖化傾向が人間の営みの結果によるものだとすると、我々が考えなければならない問題の大きさに、かえって背筋が寒くなる思いがいたします。



さて、先日、南中学校校区の4小中学校 PTA 合同の研修会が本校体育館で行われました。当日は「子供とネットを考える会」代表の山口あゆみ様を講師にお招きし、子どもを取り巻くネット環境の課題についてご講演いただきました。ゲームや動画、SNS の使い方など様々なお話をしていただきましたが、お話を伺っていて感じたのは、結局ネットというものは使い方次第なのだなということでした。あまりにも当たり前の感想なのですが、確かに正しく上手に使えばこれほど便利なものはないでしょうし、使い方を誤れば恐ろしい凶器にもなりえるということを再確認した次第です。もともと道具というものは多かれ少なかれそういうものなのでしょう。例えば自動車。我々の生活には欠かせない便利な道具ですが、一つ間違えれば人の命を奪う凶器



にもなってしまいます。ネットも同じ諸刃の剣のようなものなのでしょう。ただ一つ大きく違うのは、自動車の危険性はだれにもわかるものですが、ネットの危険性は見えにくく、ともすればその恐ろしさに全く気が付かないまま使っている場合があるということです。例えば何気なく SNS にアップした自宅の写真。位置情報の設定をオフにしていなくて、そこから撮影場所を特定することはそれほどむずかしいことではないようです。また、仮に位置情報をオフにしてあっても、写真に写った様々な情報から、悪意のある

人間なら撮影場所を割り出すことも可能だということです。全く未知の第三者が自分の写真を見て何らかの関心を持ち、そして自宅の場所を探り出している。そう考えると何とも不気味な感じがするのではないのでしょうか。しかし、実際にはネットが持つそういう危険性を我々は普段あまり意識せず使っています。大人でもそうでしょうし、まして子どもであればなおさらです。子どもたちを危険から守り、ネットを安全なツールとして正しく使えるよう、まず我々大人が正しい知識を身に着け、それを子どもたちに教えていく必要があるのではないのでしょうか。大人の責任は大きいです。